

外為マンズリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/02/02

分かれる中銀の政策スタンス

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	↓	ハト派になるかRBA理事会を注視 予想レンジ: 88.200 ~ 95.000 円	2-3
NZドル/円	↓	RBNZはタカから中立へ 予想レンジ: 82.500 ~ 88.400 円	4-5
ランド/円	→	SARBはハト派化せず 予想レンジ: 9.700 ~ 10.500 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

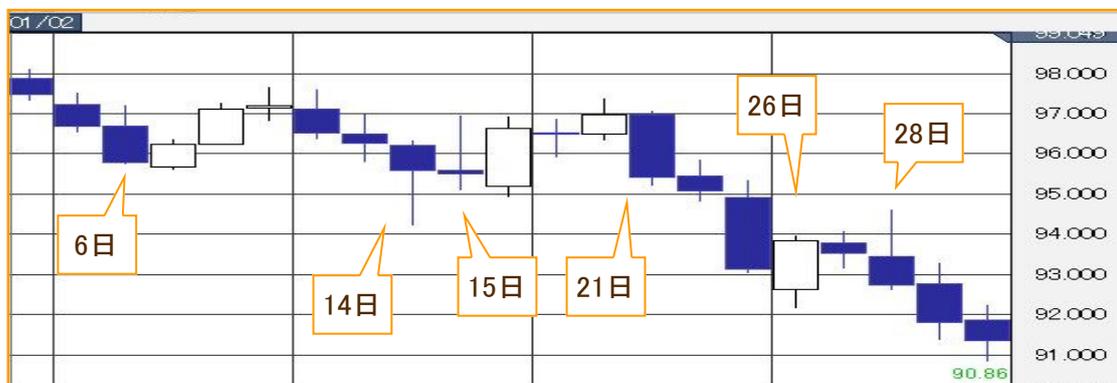
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 1月の推移

AUD/JPY

1月の豪ドル/円相場は90.868～98.115円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.6%の大幅下落(豪ドル安・円高)となった。

豪準備銀行(RBA)の利下げ観測がくすぶる中、上値が重く推移。加中銀(BOC)の予想外の利下げをきっかけに、次に利下げする候補として同じ資源輸出国の豪州ではとの見方が強まり、豪ドル/円は下落した。豪10-12月期消費者物価指数の基調インフレ率が予想を上回る伸びとなるも、利下げ観測を打ち消すには至らなかった。その後は著名RBAウォッチャーが2月利下げとの見方を発表した事にも反応し、豪ドル/円は2014年3月以来となる90円台に下落した。



四本値

OPEN	97.900
HIGH	98.115
LOW	90.868
CLOSE	91.355

6日	豪11月貿易収支が9.25億豪ドルの赤字と、予想(16.00億豪ドルの赤字)を下回る赤字となった事や、「中国は今年スタートさせるインフラプロジェクト300件を承認し、総額7兆円を超える投資を行う」との報道を受け、豪ドル/円は一時97.220円まで上昇。しかしその後、原油相場の下落を嫌気してNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、95.774円まで反落した。
14日	銅相場の急落や原油相場の軟調推移を嫌気して、豪ドル/円が急落。日経平均が一時310円超下落した事も重石となり、94.257円まで一段安となった。ただ、その後は銅相場の上昇と共にNYダウ平均が下げ幅を縮小するとリスク回避ムードが和らぎ、下げ幅を縮めた。
15日	豪12月の失業率が6.1%、新規雇用者数は3.74万人増、労働参加率は64.8%と、予想(6.3%、0.50万人増、64.7%)より良好な結果であった。また、雇用者数は正規雇用者を中心とした増加となり、質を伴った雇用の改善との見方から豪ドル買いが強まると、豪ドル/円はその後96.948円まで上昇。しかし、スイス中銀がユーロ/スイスフラン相場の防衛ライン(1ユーロ=1.20スイスフラン)廃止を発表。これを受けて市場が混乱し、リスク回避の動きが広がったことから、95.134円まで急反落した。
21日	一部で日銀が付利引下げなど緩和強化に動くとの観測が浮上していたが、日銀は金融政策の現状維持を決定。これを受けて失望感から円買い戻しが優勢となり、豪ドル/円は下落。その後、加中銀(BOC)の予想外の利下げを受けて資源国通貨を売る動きが強まり、95.228円まで一段安となった。
26日	25日のギリシャ総選挙において、緊縮財政見直しを掲げる急進左派連合(SYRIZA)の勝利が確定的となった。同国情勢を嫌気してリスク回避ムードが広がり、豪ドル/円は一時92.174円まで下落。ただ、その後は主要国での株高を受けて反発した。
28日	豪10-12月期消費者物価は前期比+0.2%、前年比+1.7%と予想(+0.3%、+1.8%)を下回る伸びとなったものの、RBAが重視する基調インフレ率が前年比+2.25%と予想(+2.20%)を上回る伸びを示した。これを受けて利下げ観測が後退すると共に豪ドル買いが強まり、豪ドル/円はその後94.618円まで上昇。しかし、米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明で年内の利上げ開始姿勢が維持されたとの見方からNYダウ平均が下落した事を嫌気して、反落した。

日経平均

OPEN	17325.68
HIGH	17850.59
LOW	16592.57
CLOSE	17674.39

NYダウ平均

OPEN	17823.07
HIGH	17951.78
LOW	17136.30
CLOSE	17164.95

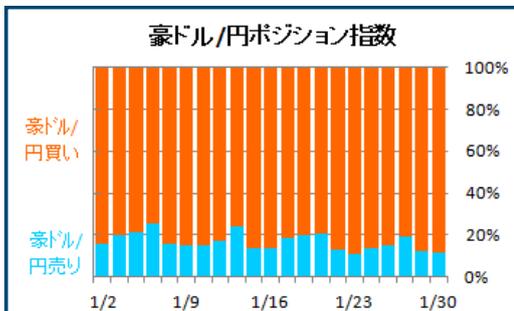
上海総合指数

OPEN	3258.627
HIGH	3406.786
LOW	3095.066
CLOSE	3210.363

豪10年債利回

OPEN	2.7350%
HIGH	2.8710%
LOW	2.4430%
CLOSE	2.4430%

1月のポジション動向



2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・RBAキャッシュターゲット(3日)
- ・日銀金融政策決定会合 (17~18日)
- ・豪12月小売売上高(5日)
- ・RBA四半期金融政策報告(6日)
- ・中国2月HSBC製造業PMI・速報 (25日)
- ・米1月雇用統計(6日)
- ・豪1月雇用統計(12日)
- ・RBA議事録(17日)

2月の見通し

足元で利下げ観測が高まる中、今月はRBA理事会が焦点である。仮に利下げが実施された場合、声明文で追加利下げの可能性について言及があれば、豪ドル売りが加速しそうだ。利下げの効果を見極めるべく、一旦様子見姿勢をとるようだと、売り一巡後にショートカバーが入る事も考えられる。ただ、豪ドル/米ドル相場が昨年スティーブンスRBA総裁が言及した「0.75ドル」にかなり接近した事や、豪10-12月期消費者物価が予想を上回った事から、利下げ観測がやや前のめりとの印象もある。仮に政策金利据え置きを発表すれば豪ドルを買い戻す動きとなる公算が大きい。もっとも、追加利下げ観測を打ち消す内容の声明文が出ない限り3月の利下げ観測が残るため、ショートカバーが一服すると再び売られる事もあり得る。いずれにせよ、声明文での今後の政策スタンスを注視する必要があるだろう。また、6日のRBA四半期金融政策報告も合わせて注目したい。

豪国外では、米1月雇用統計を始めとした経済指標を確認しつつ、米利上げ開始時期を読む事となりそうだ。予想より強い結果が相次ぐようだと、市場で年央と見られている利上げ開始時期が前倒しされるとの観測が浮上して米ドルが買われ、豪ドル/米ドルの下げ主導で豪ドル/円相場を下押す可能性がある。

その他、ギリシャ関連や中国経済について動きがあれば、材料視される事も考えられる。(川畑)

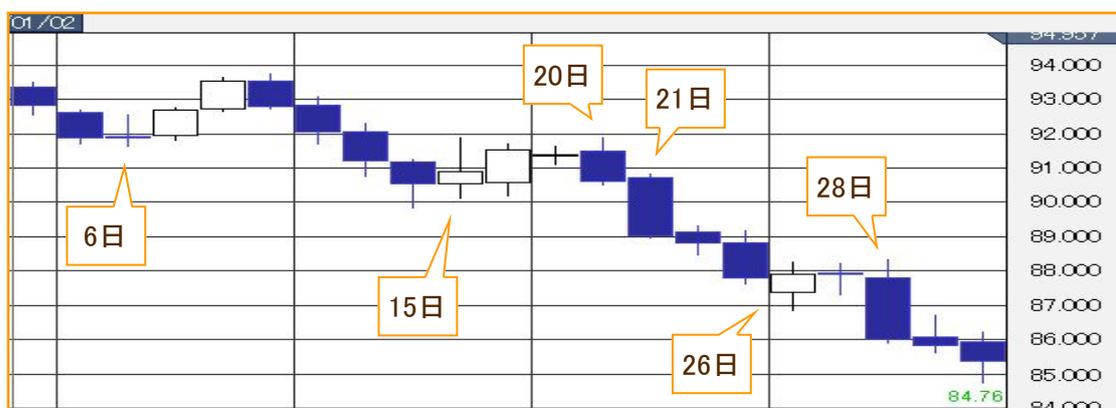
(予想レンジ: 88.200~95.000円)

NZドル/円 1月の推移

NZD / JPY

1月のNZドル/円相場は84.767～93.746円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約8.4%の大幅下落(NZドル安・円高)となった。

加中銀(BOC)の予想外の利下げをきっかけに、市場で次に利下げする候補として同じ資源輸出国である豪州と共にNZが挙げられ、NZドルが売られた。NZ準備銀行(RBNZ)が声明でそれまでの金利引き締めから中立にスタンスを変更した事が伝わると、一段と下落。30日に昨年10月以来となる84.767円の安値を付けた。



四本値

OPEN	93.380
HIGH	93.746
LOW	84.767
CLOSE	85.377

6日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札で、GDT物価指数が前回比+3.6%と前回(+2.4%)を上回った。これを好感してNZドル/円は92.549円まで上昇するも一時的であり、その後は原油相場下落を嫌気してNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、上げ幅を縮小した。
15日	スイス中銀がユーロ/スイスフラン相場の防衛ライン(1ユーロ= 1.20 スイスフラン)廃止を発表。これを受けて市場が混乱し、リスク回避の動きが広がると、NZドル/円は90.148円まで下落。ただ、売り一巡後は91.887円まで切り返すなど、値動きの荒い展開となった。
20日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札で、GDT物価指数が前回比+1.0%と前回(+3.6%)を下回り、NZドル/円は下落。終盤に発表されたNZ10-12月期消費者物価が前期比-0.2%、前年比+0.8%と予想(±0.0%、+0.9%)を下回る伸びであった事も嫌気され、90.510円まで続落した。
21日	一部で日銀が付利引下げなど緩和強化に動くとの観測が浮上していたが、日銀は金融政策の現状維持を決定。これを受けて失望感から円買い戻しが優勢となり、NZドル/円は下落。その後、BOCの予想外の利下げを受けて資源国通貨を売る動きが強まり、88.967円まで一段安となった。
26日	25日のギリシャ総選挙において、緊縮財政見直しを掲げる急進左派連合(SYRIZA)の勝利が確定的となった。同国情勢を嫌気してリスク回避ムードが広がり、NZドル/円は一時86.853円まで下落。ただ、その後は主要国での株高を受けて反発した。
28日	RBNZは政策金利の据え置き(3.50%)を発表。声明で金利見直しについて「当面据え置きを予想」(前回は「先行きの緩やかな上昇を見込む」と中立スタンスに変更し、「今後の金利調整はこの先の経済指標次第」「NZドルは依然として正当化できない持続不能な高水準」などの見方を示した。これらを受け、NZドル売りが強まった。その後、NZ12月貿易収支が1.59億NZドルの赤字と予想(0.75億NZドルの黒字)外の結果となった事も重石となり、NZドル/円は85.904円まで一段安となった。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	17325.68
HIGH	17850.59
LOW	16592.57
CLOSE	17674.39

NYダウ平均

OPEN	17823.07
HIGH	17951.78
LOW	17136.30
CLOSE	17164.95

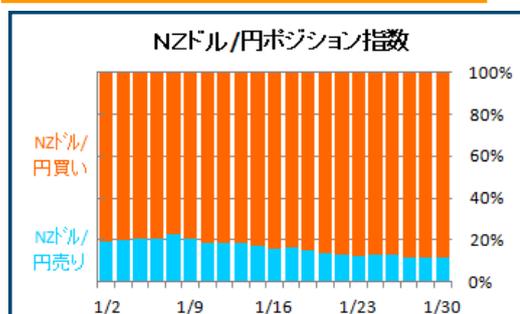
上海総合指数

OPEN	3258.627
HIGH	3406.786
LOW	3095.066
CLOSE	3210.363

NZ10年債利回

OPEN	3.6570%
HIGH	3.6570%
LOW	3.1660%
CLOSE	3.1830%

1月のポジション動向



2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・NZ乳業大手フォンテラ入札 (3日、17日)
- ・NZ10-12月期失業率(3日)
- ・米1月雇用統計(6日)
- ・NZ10-12月期小売売上高(16日)
- ・日銀金融政策決定会合 (17~18日)
- ・中国2月HSBC製造業PMI・速報 (25日)
- ・主要国株価、原油相場

2月の見通し

先月のNZドル/円は、RBNZのハト派的声明を受けて下落した。今月はNZでフォンテラの定例入札を始め、10-12月期の失業率や小売売上高などの発表が予定されており、これらを通してRBNZの政策スタンスを占う事となりそうだ。足元のインフレ率がRBNZのインフレ目標下限(年+1.0%)を下回る中、予想より弱い結果が相次ぐようだと、NZの利上げ再開観測が一段と遠のき、NZドル相場に重石となりそうだ。

テクニカル面では、NZドル/円は週足の一目均衡表の雲の中に突入する中、雲の下限を割り込むことなく反発できるかが焦点である。その雲の下限について、2月第1週と第2週は82.507円に位置するが、その後は徐々にせり上がり、最終週には84.587円に達する。仮に雲の下限を下抜ける場面では転換線が基準線を下抜ける可能性が高く、下落を示唆するとされる「三役逆転」点灯につながる公算である。材料・チャート両面から下落サインが確認されれば、下押しは思いのほか勢いを増す事も考えられるので注意したい。

その他先月に続き、ギリシャ情勢や原油相場の動向に動きがあれば、材料視される事も考えられる。(川畑)

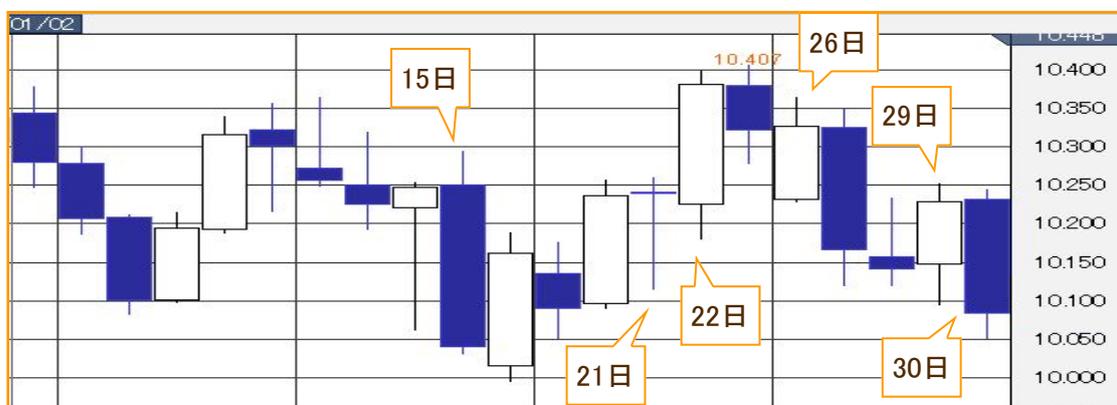
(予想レンジ: 82.500~88.400円)

ランド/円 1月の推移

ZAR/JPY

1月のランド/円相場は9.996~10.407円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.0%の下落(ランド安・円高)となった。

スイス中銀(SNB)の突然の防衛ライン撤廃や欧州中銀(ECB)の量的緩和導入、ギリシャ問題など材料はあったが、いずれもランド/円相場に与えた影響は限定的となった。豪ドルやNZドルが大きく下落したのに対しランドがそれほど崩れなかったのは、南ア準備銀行が従来の政策スタンスを維持すると表明した事が大きいようだ。



四本値

OPEN	10.345
HIGH	10.407
LOW	9.996
CLOSE	10.084

15日	SNBがユーロ/スイスフラン相場の防衛ライン(1ユーロ= 1.20 スイスフラン)廃止を発表。これを受けて市場が混乱し、リスク回避の動きが広がった事から、ランド/円は10.032 円まで急落した。
21日	南ア12月消費者物価指数は前年比5.3%と予想(+5.5%)を下回り、南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標のレンジ(年3~6%)内に4カ月連続で収まった。ただ、反応は限定的であった。
22日	欧州中銀(ECB)の量的緩和発表を好感して、NYダウ平均が上げ幅を拡大。これを受け、ランド/円は10.399円まで上昇した。
26日	25日のギリシャ総選挙において、緊縮財政見直しを掲げる急進左派連合(SYRIZA)の勝利が確定的となった。同国情勢を嫌気してリスク回避ムードが広がり、ランド/円は一時10.230円まで下落。ただ、その後は主要国での株高を受けて反発した。
29日	一部で利下げ観測がくすぶる中、南ア準備銀行(SARB)は全会一致で政策金利の据え置き(5.75%)を決定。クガニャゴ総裁が「南アのデフレの恐れはない」「現在の政策スタンスは適切」などの見解を示した事を受け、ランドが買われた。NYダウ平均の下げ幅縮小もあり、ランド/円は10.253円まで上伸した。
30日	南ア12月貿易収支が68億ランドの黒字(予想:18億ランドの黒字)と伝わるも、市場の反応は限定的。その後は予想を下回る伸びとなった米10-12月期国内総生産(GDP)を嫌気してNYダウ平均が下落した影響を受け、10.051円まで反落した。

日経平均

OPEN	17325.68
HIGH	17850.59
LOW	16592.57
CLOSE	17674.39

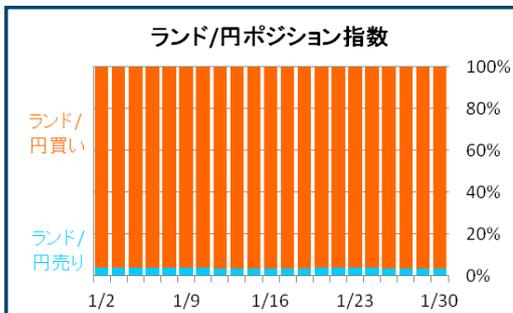
NYダウ平均

OPEN	17823.07
HIGH	17951.78
LOW	17136.30
CLOSE	17164.95

NY金

OPEN	1184.00
HIGH	1307.80
LOW	1167.30
CLOSE	1278.50

1月のポジション動向



2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米1月雇用統計(6日)
- ・南ア10-12月期失業率(10日)
- ・南ア1月消費者物価指数(18日)
- ・日銀金融政策決定会合(17~18日)
- ・南ア10-12月期GDP(24日)
- ・中国2月HSBC製造業PMI・速報(25日)
- ・南ア1月貿易収支(27日)
- ・主要国株価、原油相場

2月の見通し

先月のSARB理事会では一部で利下げ観測が浮上するも、政策金利を据え置き、現状の政策スタンスの維持を発表した(=ハト派化しなかった)。また、国外で多数の経済イベントがあったが、いずれも相場を動かす決定打とはならず、ランド/円は昨年12月後半から続く、概ね10.000円~10.400円のレンジを脱却できなかった。

今月は米欧で金融政策発表が予定されておらず、目玉となる経済イベントに乏しい事から、各国で発表される経済指標を眺めながら、方向感を模索する事となりそうだ。また南ア国内では、原油安の恩恵を受けた貿易黒字拡大といったランド買い要因がある一方、南アの電力供給問題や低成長といった売り要因もあり、方向感が出にくい。よって、前述のレンジを上下どちらに突破するか、きっかけを待つ展開となる可能性がある。(川畑)

(予想レンジ: 9.700~10.500円)